

支
賓陽方面に於ける日本軍の潰滅は南支那軍の最初の大勝であつた、この日本側の敗北は日本軍隊の反戦行動と日本軍隊内における厭戦感情の増大が原因してゐる外、日本が経済的にも人的にも極めて困難に陥り、今後戦争を續行することが不可能となつたことによるものである。歐洲戦争の情勢によつて多少希望を見出した日本軍司令部は支那に全支派遣軍總司令部を設置し、西尾が總司令部官とし、板垣が參謀長として着任した。この計畫は在支日本軍を統一し、各軍の團結を固めるにあつた、併し湖南省における支那軍の勝利に續く廣東の勝利はサムライ掠奪軍及汪精衛を窮地に陥入れた、この結果彼らは支那軍の勝利に對する世界の注目を逸らすべく、特別政府を樹立するに決し、汪を始め彼の一味が各地から南京に集まつた、斯る際に當つて支那軍が廣西南部において再び大勝利を博したことは、汪及日本側手先きを痛く困惑せしめてゐる、二月の大勝利に續き、支那軍は全力を集中して南寧―欽州間の全線を確保したる爲、南寧は後方日本軍との連絡を完全に斷つに至つた、靈山を包圍せる支那軍は三日間に亘つて激戦を交へ日本側に二千四百名の損害を出さしめた、二十二日朝靈山は支那軍の占領するところとなり、靈山の日本軍は二縱隊に分れて退却してゐる、この新しい勝利は最後の勝利が我らにあることを實證し、更に南京の傀儡の屋臺店が破壊され、日本軍が支那領土より撃退されることも間近であることを示してゐる。

内閣情報部三。三〇

情報第二號

獨、海南島に潜水艦基地建設を企圖

―英紙報道―

―同盟來電―不發表―

一、ロンドン廿八日發

廿八日付ニュース。クロニクル紙は上海情報としてドイツは海南島に潜水艦基地を建設すべく目下日本政府との間に右土地租借交渉を行つてゐる旨左の如く報じ述べてゐる、

「極東海面は今や全く英佛海軍の支配下にあるが英獨潜水艦戦が極東にも波及せんとする惧れがある廿八日夜ロンドンに達した上海よりの情報はドイツが海南島に潜水艦基地を建設すべく目下日本政府と折衝中と報じ又少くとも八十隻の潜水艦が歐洲からシベリア鐵道經由で續々極東に輸送されつつあり、これ等潜水艦は鯨灣（? Whale Bay）に於て組み立てられる豫定と傳へられる、然して一説に依れば海南島潜水艦基地建設に關する東京交渉にはオット駐日ドイツ大使が當つてゐるこのことである、

一方右交渉と共にドイツは日本に對しソ聯と一層緊密な協調をなす様勧告し、以て、日ソ兩國とドイツの三國が提携して支那貿易の獨占を企圖してゐるこの情報もある、これらの動きが如何なる結果を生み出すかは判明しないが、三日前オット―大使は日本外務省を訪

問、有田外相に會見を求めたところ有田外相多忙のため會見出來ず、谷外務次官と會見した事實がある」

二、ロンドン廿八日發同盟

ドイツ政府が日本政府に對し海南島に潜水艦基地設立方を交渉中との説に關しては當地官邊は餘り知らない様であるが、若し斯かる説ありとするも夫は實現不可能なる一浮説に過ぎないとし左の如く語つた。

即ち海南島は新嘉坡、香港、印度支那等英佛兩國の海軍の駐屯せる地點に近接し且ドイツ本國と非常に遠隔の地點に在る關係上、其處にドイツが潜水艦基地を設くる事は想像出來ず且例へ日本政府の承諾を得るとしても其の間には英佛兩國の干涉もあるべく従つて同計畫の實現は到底難かしい。

第二の理由として、斯かるドイツの要求は、日本をして當然歐洲戰爭不介入の方針を放棄せしめることとなるが、日本が總ての準備を完了する曉に於て之を決行することは別とし、現在の情勢に於て日本が其の國是を變更し、ドイツ側に加擔し英佛兩國を敵に廻すことは到底想像出來ないことである。

他方之を以つてドイツが再度日本を説いて獨ソ兩國との接近を圖り以つてドイツの對支貿易を確保せんとする爲なりと云ふが如きは一層あり得べからざることである。

日本人關係方面に於ても氏の説は單なる浮説であり、恐らくは支那側が宣傳の爲による以外の何物でもないだらうとして重要視してゐない。

内閣情報部三・三〇

情報第三號

マニラ英語放送

(東京都市通信局聴取)

三月二十七日

一、(モスコ)駐佛ソ聯大使スリツツ氏はソ聯政府當局より召還された模様である、右に關しモスコ市のタス紙は昨夜、今回同大使が任地より召還されるに至つた原因は、義にソ芬和平協定が成立した際、同氏はスターリン書記長に「ソ聯政府の大英斷並に勇敢なる我が赤軍に對して祝意を表す、東南歐に戦火を擴大せんとした英佛の好戰國の企圖は終に失敗に歸した」といふ意味の祝電を發したのが端なくもフランス政府當局の知る所となつた一事に在ると云ふ記事載せてゐた、ソ聯政府當局はラヂオを通じて既に同大使をフランスの要請される儘に召還することに決した旨一般民衆に發表したが富のフランスは斯かる措置をとつたものの佛ソ國交を斷絶する意圖は毫末も無いと云つて居る。

二、(パリ)レイノー新佛首相は組閣以來昨日最初のラヂオ講演を行ひ對獨戰爭遂行の決意並に新内閣の經綸抱負に關し大要左の如く語つた、

凡ゆる分野に於て對獨戰爭を遂行するのは我が政府の義務である、我々の目的は終始一貫して居る吾々は英國と協力の下に最後の勝利を勝ち得るまで現在の對獨戰爭を遂行す